

令和6年度 社会福祉法人東御市社会福祉協議会事業報告

令和6年1月に起きた能登半島地震や7月と9月の豪雨災害は、人々のつながりの希薄化が懸念される中、災害への備えと日頃の人間関係や地域づくりなど地域福祉と災害について改めて深く考える機会となりました。また、「まいさぼ東御」などの相談業務では、社会的孤立と8050問題、物価高騰による経済状況の悪化、子どもの不登校や子育て世帯の孤立、諸事情により権利を護ることが難しい人の権利擁護の支援など、地域住民と共にその解決や改善に取り組みました。その他、新規事業として東御市が新たに開所した「子ども第三の居場所 ゆめぼけっと・とうみ」の運営委託を受け、他事業を含めて子どものいる世帯に対して精力的に支援を行いました。

また、令和6年度は2つの計画を作成しました。「第5期福祉活動計画」を「第5次東御市地域福祉計画」と一体的に策定し、令和7年度からスタートします。この計画では、社協・行政・関係団体や地域住民それぞれの役割を整理・明確化し、地域福祉の推進を目指しています。その動きと連動し、東御市社協の経営計画にあたる「第1期東御市社会福祉協議会総合計画」の策定に全職員が参加して取り組みました。基本理念を「一人ひとりの豊かな暮らしを未来へ！～つながりを力に、悩み笑える『とうみづくり』に取り組みます～」と定め、今後5年間の東御市社協の組織運営の方針とし、各年度の当初に具体的な計画を立て進めます。

令和6年4月から令和7年3月までに取り組んだ主な事業は、次のとおりです。

I. 組織運営の強化・人材育成

1. 法人組織の運営・体制の強化

(1) 理事会 (3回)

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第96回 6.6.7 (金)	12人	・令和5年度事業報告及び一般会計決算 ・評議員候補者の推薦について ・評議員会の開催について
第97回 6.12.4 (水)	11人	・令和6年度上期事業の概要及び一般会計中間決算の状況について ・職員給与規定の一部を改正する規定 ・居宅介護事業所運営規定の一部を改正する規定 ・令和6年度一般会計補正予算 (第1号) ・評議員候補者の推薦について ・評議員会の開催について
第98回 7.3.19 (水)	12人	・定款の一部を改正する定款 ・東御市支援対象児童等見守り強化事業の受託について ・東御市子ども第三の居場所運営業務の受託について ・令和6年度一般会計補正予算 (第1号) ・評議員会の開催について

(2) 評議員会 (5回)

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第65回 6.5.17 (金)	21人	・理事の選任について

第 66 回 6. 6. 24 (月)	18 人	・ 令和 5 年度事業報告及び一般会計決算
第 67 回 6. 12. 25 (水)	21 人	・ 令和 6 年度一般会計補正予算 (第 1 号)
第 68 回 7. 3. 3 (月)	21 人	・ 理事の選任について
第 69 回 7. 3. 26 (水)	16 人	・ 令和 6 年度一般会計補正予算 (第 2 号) ・ 令和 7 年度事業計画及び一般会計予算

(3) 監 査

○税理士による会計指導

決算 令和 6 年 5 月 14 日 (火) 中間 令和 6 年 11 月 6 日 (水)

○監事による監査

決算監査 令和 6 年 5 月 22 日 (水) 中間監査 令和 6 年 11 月 20 日 (水)

(4) 支部長会

- ・期 日 令和 6 年 7 月 12 日 (金)
- ・場 所 総合福祉センター 3 階 講堂
- ・参加者 59 人
- ・内 容
 - ① 令和 6 年度 社会福祉協議会の会費募集について
 - ② 令和 6 年度 赤い羽根共同募金の取り組みについて



<支部長会議>

(5) 法人内の連携

- ・各種プロジェクト (広報・福利厚生) の設置・推進
- ・グループウェアの導入で、情報共有を図る
- ・地域福祉活動計画及び東御市社会福祉協議会総合計画策定における各部会の開催

2. 自主財源の確保

(1) 社会福祉協議会への寄付

ア. 金銭の寄付

個人 11 人	14 団体	総額 1,979,154 円
---------	-------	----------------

イ. ウェス

個人 4 人	1 団体	合計 13 件
--------	------	---------

ウ. 物品の寄付

個人 25 人	6 団体		合計 31 件
介護用品	一般物品		
ポータブルトイレ 6 台	肌着類	マスク	雑巾
シャワーチェア 1 台	衣類	はがき	切手

介護用ベッド	2 台	はんでん	タオル	古タオル
杖	1 本	作業着	風呂敷	座布団
車いす		シーツ	ペットオムツ	児童用書籍
紙オムツ		文房具		
尿取りパット				
リハビリパンツ				

(2) 社協会員の加入状況と会費の収納

年度	会員区分	一般会員	賛助会員	法人会員	合 計
令和6年 実績	人 数	5,724 人	558 人	161 法人	
	金 額	5,722,000 円	1,118,000 円	1,485,000 円	8,325,000 円
令和5年 実績	人 数	5,794 人	600 人	164 法人	
	金 額	5,793,500 円	1,210,000 円	1,530,000 円	8,533,500 円

3. 研修事業・人材育成

(1) 役員研修

① 社会福祉トップセミナー

- ・期 日 令和7年3月18日(火)
- ・場 所 浅間温泉文化センター(松本市) 5人出席
- ・対談 テーマ「人口減少社会における福祉のあり方」 講師:上野千鶴子氏
フロアセッション「これからの福祉をともに考える」

(2) 職員研修

① 外部研修

安全運転管理者研修会、日常生活自立支援事業推進会議、福祉教育実践研修、生活福祉資金担当者会議、権利擁護推進セミナー、成年後見制度講座、地域づくり推進研修、信州パーソナル・サポート事業支援員研修会(県実施)【生活困窮者自立支援システム編】【地域研修】・外国人相談対応研修会【社会的養護編】【テーマ別研修会】外国人相談対応研修会、孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援、若年層が抱える課題とその支援、令和6年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修、第11回生活困窮者自立支援全国研究交流大会、第2回就労支援専門部会及び支援員向け研修、家計改善支援部会「債務整理の基礎知識～誇大ネット広告の被害と実態の対処法～」を学ぶ、家計改善支援部会全体報告会講演と「家計管理アプリと学習教材を全国に普及し、早期支援を実現する事業」の報告、生活困窮者支援推進セミナー～子ども・若者の生きづらさ、自殺について考えよう～、信州こどもカフェ推進上田地域プラットフォーム全体会、令和6年度第1回・2回ひきこもり支援実践研究会、第2回社会福祉と動物愛護管理の連携会議、自殺対策関係者研修会、摂食障がい経験からまなぶ そしてつなぐ、令和6年度重層的支援体制整備事業従事者研修会、サンファームとうみ農福連携講習会、令和6年度職業紹介セミナー、上小地域医療・介護連携推進研究会、災害ボランティアセンター運営支援者研修会、男女共同参画の視点による災害対応研修、地域共生推進セミナー

② 上小ブロック役職員研修

- ・期 日 令和6年9月19日(木)
- ・場 所 青木村文化会館、五島慶太未来創造館
- ・参加者 32人
- ・内 容 講演会
「地域と共に歩むクロスロードあおきとカントリーロードあおきの実践」
交流会、施設見学「五島慶太未来創造館」

(3) 実習生の受入

社会福祉士資格取得のためのソーシャルワーク実習

長野大学3年	3人(夏季	令和6年8月16日～9月18日	24日間)
佐久大学3年	2人(夏季	令和6年8月16日～9月18日	24日間)
群馬医療福祉大学3年	1人(夏季	令和6年8月16日～9月18日	24日間)
長野大学2年	1人(春季	令和7年2月15日～2月28日	8日間)
佐久大学2年	2人(春季	令和7年2月15日～2月28日	8日間)

(4) 職員の講師・委員等の派遣

○委員等

- ・主催：全国社会福祉協議会(以下、全社協) 地域福祉推進委員会
「社協における生活困窮自立支援の在り方検討委員会」
- ・東御清翔高校 学校評議員

○講師・実践報告等の登壇

- ・実践報告 主催：長野県共同募金会・中央共同募金会、
期日：令和6年7月3日
「第13回 赤い羽根全国ミーティング in 信州」・事例報告「信州から考える赤い羽根」
- ・講師派遣 主催：厚生労働省より全社協委託研修
期日：令和6年7月31日
自立相談支援事業支援員初任者研修
「社会資源の開発とネットワークの構築を理解する」
- ・実践報告 主催：キャノングローバル戦略研究所
期日：令和6年9月14日
「長野県のソーシャルワーカーによるフューチャー・デザイン・ワークショップ展開」
- ・講師派遣 主催：長野県社協「地域福祉コーディネーター総合研修」
期日：令和6年9月30日(月)
- ・講師派遣 主催：佐久市社会福祉協議会
期日：令和7年2月1日
「(生活困窮・ひきこもり・孤立孤独・子ども若者…) 誰も取り残さない地域づくり
へ～ボランティア・市民の力で地域は変わる～」

(5) 視察受入

- 期日：令和6年5月2日 小諸市社協(まいさぼ小諸 職員2名)
- 期日：令和6年7月4日
全社協(会長 村木厚子氏、同志社大学 上野谷加代子氏、全社協・県社協職員4名)

○期日：令和6年11月27日 岡谷市社協（地区社会福祉協議会）17人

○期日：令和7年1月9日 北アルプス圏域権利擁護推進ネットワーク協議会 24名

（6） 寄稿

○学会誌掲載「生活困窮者支援から『孤立・孤独を防ぎ、つながり合う地域を創る』協働とアウトリーチのソーシャルワーク実践」『地域福祉実践研究』日本地域福祉学会機関誌編集委員会 令和6年5月発行

○専門誌掲載「子どもにとって『住まい』とは？まいさぼ東御の取り組み」『2024 長野の子ども白書』長野の子ども白書編集委員会事務局 令和6年7月5日発行

○共同研究 「まいさぼ」における外国人相談支援の実態と課題に関する調査報告書



＜第13回 赤い羽根全国ミーティング実践報告＞

＜研修資料集・寄稿・調査報告書＞

4. 苦情対応

・苦情受付状況 苦情受付件数 2件

5. 連絡調整事業

（1） 民生児童委員協議会との協働

○地域福祉事業の周知・啓発・事業に関する協力

○福祉活動に対する助成金の交付

・福祉委員（民生児童委員）活動費 81名 405,000円

・生活福祉資金実費弁償 75名 225,000円

○理事会・地区民協定例会・全体会への出席

（2） 社協法人会員の皆様へ社協事業に対する情報提供

○社協広報紙の送付

6. 第1期東御市社協総合計画の策定

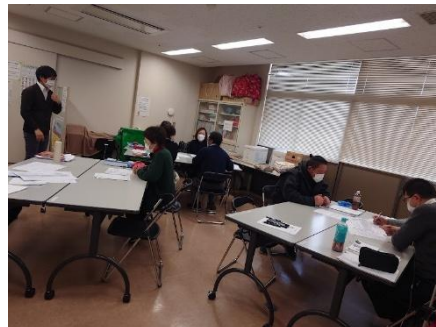
東御市社協が中長期的に取り組む事業と基盤となる法人の体制整備と財政計画を再考・再編し、「第2期発展強化計画」の取り組みを踏まえ、事業や取り組みを「地域福祉部門」、「相談支援部門」、「法人運営部門」に整理統合し、各部門の現状と課題を分析しながら、今後の東御市社協の進むべき方向性を示す計画を策定しました。計画策定は、約4カ月の間に全職員が参加し独自に作成をしました。

○各部会の開催

実施項目	回数	日 程
研修会	2 回	令和 6 年 12 月 13 日（兵庫県立大学・竹端寛氏） 令和 6 年 2 月 6 日（同志社大学・永田祐氏）
職員アンケート	3 回	令和 6 年 12 月 23 日～令和 7 年 1 月 6 日、
策定委員会	3 回	令和 7 年 1 月 23 日、2 月 12 日、3 月 12 日
リーダー会議	12 回	令和 7 年 1 月 9 日・14 日・21 日・28 日、2 月 4 日・10 日・18 日・25 日、3 月 4 日・11 日・17 日・27 日
全体統括	6 回	令和 7 年 1 月 31 日、2 月 7・21 日、3 月 3 日・14 日・28 日
法人運営	7 回	令和 7 年 1 月 15・24 日、2 月 5 日・15 日・20 日・27 日、3 月 5 日
地域福祉・相談支援	4 回	令和 7 年 1 月 22 日、2 月 5 日・20 日・27 日
事業継続計画	1 回	令和 7 年 2 月 5 日



<総合計画策定委員会>



<総合計画部会>



<総合計画オブザーバー（永田 祐氏：左 竹端 寛氏：右）>

II 総合相談、支援事業の推進

1. 初期相談の対応及び専門的・継続的な総合相談支援

◆東御市社会福祉協議会として、各部門で初期相談対応・継続的な総合相談を行った。詳細は、各相談事業の箇所を参照

◆「人権よろず相談」への協力：計12回

◆「年末みにふえす&まちかどなんでも相談会」

・日時：令和6年12月21日（土）

・場所：ふれあいとうみ

全市民を対象に食料・日用品配布を兼ねて相談会を開催しました。

当日は、地域の相談、子どもの相談、法律の相談等多岐に対応できるよう東御市福祉課、市民課、子どもサポートセンターにも協力いただきました。また、予約制で無料の司法書士の法律相談も行いました。ライオンズクラブや地域のこども食堂、ボランティア団体等にもご協力いただき、軽食や遊び場など気軽に参加できる相談会になりました。

・来場者 190名 ・相談者 20名

・食料・日用品配布 60件



＜年末みにふえす&
なんでも相談会＞

2. 生活困窮者自立支援事業（東御市生活就労センター「まいさぼ東御」）

(1) 自立相談支援事業（市委託事業）

11,682,468円

東御市生活就労支援センター「まいさぼ東御」（以下、当機関とする）は、生活困窮者自立支援法に基づき、生活に困窮している、今後その恐れのある方の総合的な相談窓口を東御市から受託し運営しました。10代の若者から高齢者まで幅広い年齢層の生活課題を受け止め、法定事業と、独自事業を活用し、生活や就労面の自立と課題の改善・解決に取り組みました。

令和6年10月からは、生活保護受給者のうち「特定被保護者」や当機関の支援と生活保護制度で協働して支援を行うことが望ましい事例や、生活保護が廃止になったが今後も支援が必要である事例について、取り組みを始めました。相談体制の強化により、新規相談件数および相談支援の対応件数が昨年度と比較して大幅に増加しました。また、コロナ禍から経済的にひっ迫が続く世帯や物価高騰により、相談件数は増え続けており、支援体制の強化が課題です。また、若者や引きこもりの人や長期離職者など、生活・就労・社会面の自立支援について、更なる取り組みの強化が必要と考えます。



＜ボランティアによる相談者の転居の支援＞



＜就労準備支援事業講演会：長谷川洋氏＞

<相談件数> *相談員：5人

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規相談件数	71件	179件	110件	78件	75件	107件
継続支援件数	延807件	延1,264件	延2,003件	延2,126件	延1,787件	延1,787件
プラン作成件数	59件	40件	36件	40件	35件	45件
相談対応件数	延5,044回	延7,284回	延7,348回	延5,984回	延5,113回	延8,424回

<新規相談件数の年齢構成>

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	合計
令和6年	5	13	12	17	16	14	18	12	107
令和5年	7	10	8	11	17	12	10	0	75

<特定被保護者・生活保護者の支援実件数>

令和5年10月から、特定被保護者と生活保護制度の利用者でまいさぼの相談を必要とする事例について、福祉課と協働して取り組んだ。

特定被保護者	3
特定被保護者以外の生活保護者	3

<家計改善、就労準備、子どもの学習・生活以外の法に基づく制度の利用>
制度を利用した実件数

制 度	件 数
住居確保給付金	4
認定就労訓練事業	0
生活保護受給者等就労自立促進事業	12

<プラン作成者の状況>

状 況	件 数	状 況	件 数
経済的困窮	21	コミュニケーションが苦手	14
その他メンタルヘルスの問題	18	就職活動困難	15
家族関係・家族の問題	20	社会的孤立（ニート・引きこもりを含む）	7
病気	15	就職定着困難	6
本人の能力の課題	13	障害（手帳有）	15

<生活・就労支援に関する実績>

○就労者数

	就労者数	製造	農業	サービス	小売	医療・福祉	清掃	運輸	産業廃棄	その他
令和6年	27	3	5	2	2	8	0	1	0	1
令和5年	19	3	0	3	2	7	0	1	2	1

○就労体験事業(プチバイト、就労支援プロジェクト)

プチバイト(就職活動応援金付職場体験事業)は、1回25時間体験ができ、1時間800円の応援金を支給する事業で、就労への不安がある人の社会参加のきっかけ作りになりました。

就労支援プロジェクトは、体験研修型(1か月60時間以内、1時間800円を対象者に支給)、直接雇用型(2か月間の給料2/3を事業所に助成)の2つの型がありましたが、令和6年度から直接雇用型が廃止になり、体験研修型のみになりました。プチバイトよりも就労を想定した就労体験をすることができ、雇用促進になりました。

・プチバイト(就職活動応援金付職場体験事業)

体験者数	農業
2人	2



・就労支援プロジェクト(旧緊急就労支援事業)

延利用者数 8人 (体験研修型 8件)

<就労体験>

利用者実人数	農業	製造	福祉	小売店	清掃
8人	2	1	2	2	1

○身元保証・就労支援事業

利用者数: 0件、契約締結事業所: 0件

○入居保証・生活支援事業

利用者数: 9件、契約締結家主: 2件

(2) 家計改善支援事業(市委託事業)

3,419,371円

相談者が単身又は母子世帯や障がい・高齢者世帯等で低収入、コロナによる離職、体調不良による離職、多額の債務、税金や家賃の滞納等、複合的な課題を抱える世帯の相談に対応しました。本事業で家計表の作成をして、収支のバランスを一緒に確認し、課題の見える化を図り、借入金の債務整理を弁護士につないだり、市役所へ同行し滞納している税金の調整を行いました。収入増の方法、支出減につながる助言や支援を行い、相談者の家計管理の意欲を引き出す支援を行い生活の再建ができるように取り組んできました。

<利用件数と利用による改善状況>

○プラン作成件数 14件(実人数 13人)

○プラン作成者 性別・年齢

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
男	0	3	1	3	2	0	9
女	1	0	0	1	2	1	5

○支援状況 利用人数 38 人 (プランの作成者以外も含む 複数カウント)

支援内容	件数	支援内容		件数
家計プラン作成	13	滞納交渉	税金	6
相談時家計表の作成	35		家賃	6
キャッシュフロー表の作成	1		公共料金	3
生活福祉資金貸付	7	債務整理	弁護士	5
日常生活自立支援事業	0		司法書士	2
食糧支援の利用	27		消費生活センター	8
住居確保給付金	3	権利擁護・後見制度		1
入居保証事業	1	生活保護につなぐ		0

○支援による改善の状況 利用人数 38 人 (プランの作成者以外も含む 複数カウント)

内 容	件数	内 容	件数
自身の家計状況の把握	25	自立意欲の向上・改善	8
生活不安の解消	15	生活習慣改善	3
支出費目の優先順位の位置付け	4	家計管理の重要性の認識	8
家計の範囲内での支出	12	生活の安定	8
将来の収支変化の見通し	3	対人関係・家族関係の改善	11
その他就労収入以外の収入増	3		

(3) 子どもの学習・生活支援事業 (市委託事業)

927,820 円

小学生の学習習慣の習得のほか、高校受験のための学力をつけたいというニーズが多く、3名の相談者が受験し合格することができました。そして、不登校生徒の学習支援として、学習を行った日は登校日とカウントされることになりました。

<利用件数>

利用者数	実施日数	実施時間	支援員数
7 名	206 日	396 時間	4 名

<結果・改善状況>

支援結果・経過	件数
家庭生活習慣の習得	6
高校受験の学習 (4名のうち1名はR7年度受験予定)	4
学校生活の定着	5
登校渋りの予防	5
自己有用感や自信をつける	7
不登校生徒の学習支援	4



<就労準備支援事業プログラム
「くらしに必要なお金を上手に
使おう」>

(4) 就労準備支援事業（市委託事業）

5,224,971 円

「くる me ここから」という愛称で、個々の就労への準備期間を支援するために、日常生活自立、社会生活自立、就労自立、の3つの自立段階を踏まえたプログラムを実施してきました。働いて収入を得るという目標だけでなく、居場所や仲間づくり、さらには地域とのつながりを構築しながら、「わたしらしくはたらく」ことが実現できる場として取り組んできました。

<実施状況> 実施期間：令和6年4月～令和7年3月

項目	数字	備考
集団プログラム実施回数・延人数（実人数）	計28回・延136人（実21人）	月2回の定例プログラム・参加者数
個別プログラム実施回数・延人数（実人数）	計30回・延49人（実16人）	希望者に対して適宜実施（ちょっとボランティア含む）
地域行事への参加回数・延人数（実人数）	計6回・延25人（実8人）	市内開催の行事にチームで参加
仕事・生活サポーター等ボランティアの協力人数・参加延人数	4人・延56人	伴走支援でプログラムに同席、プログラムの企画、情報共有

<利用者状況>

- ・利用者実人数 21人
登録者10人、アウトリーチ支援事業から5人
- ・個別支援計画作成
新規：6人 継続：4人
- ・就労者数 11人 *1人が複数のカウントあり
内訳：一般就労6人（障害者雇用1人）、福祉的就労5人（A型2人、B型2人、移行1人）
- ・就労見学・体験者数 11人
- ・年代と男女比 *年度初回参加時の年齢



<就労準備支援事業・集団プログラム>

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	1	3	6	0	2	0	12
女性	1	5	2	0	1	0	9
合計	2	8	8	0	3	0	21

<実施プログラム> 第1・第3木曜日、1回2時間程度、計24回

*人数はメンバーのみ

	開催日	人数	プログラム名
1	4/11	8	「習慣化を味方につけ、生活の質を高めよう！」（前半） 「フォトさんぽ」（後半）
2	4/18	8	「願いや希望が見える化！ビジョンボード制作」
3	5/2	7	「チームワークを育む『ボッチャ』体験」
4	5/16	7	「お話し会『共に生きる社会への第一歩』」
5	6/6	5	「仲間と取り組むSST」

6	6/20	3	「自己評価を高めるヒント～仲間と共に～」
7	7/4	7	「わたしの物語～思い出のものから語ろう～」
8	7/18	6	「会話が深まるリフレクションワーク」
9	8/1	5	「ユニバーサルマナーを学ぼう！！」
10	8/22	5	「くる meeting」
11	9/5	5	「不安から安心へ！ハローワーク見学ツアー」
12	9/19	8	『ことばのチカラ』を共有しよう
13	10/3	7	「お話会 わたしのリカバリーストーリー」（公開講座）
14	10/17	8	「茶話会+ちょこっとミーティング」
15	11/7	5	「お金と正しくつきあおう」
16	11/21	5	「アートコミュニケーション」
17	12/5	7	「ちょこボラ体験 ～ちょこっと誰かの役に立つ時間」
18	12/18	8	「クリスマス会 ～和紙チームアートで紡ぐ3つの『わ』～」
19	1/9	4	「新年行事 笑い文字でありがとうを届けよう」
20	1/23	5	「くる me ここから おはなしカフェ」
21	2/6	2	「くらしに必要なお金を上手に使おう」
22	2/20	4	「当事者からの発信『就労体験から就労へ』」
23	3/6	4	『何のため』を見つめ直してみよう」
24	3/26	3	「くる me ここから 感謝の会」

＜集団プログラム「当事者からの発信『就労体験から就労へ』」＞

＜地域行事等への参加＞ チームで計6回参加

	日付	行事
1	8/31(土)	「スケッチ大会&アートチャレンジ ワークショップ（練習）」くる me に参加
2	10/12(土)	「スケッチ大会&アートチャレンジ ワークショップ」本番
3	10/26（土）	「第18回 福祉の森ふれあいフェスティバル」
4	12/21（土）	「年末みにふえす&まちかど なんでも相談会」
5	1/25(土)	「巨大紙相撲大会ワークショップ」
6	2/22(土)	「巨大紙相撲大会」本番



＜巨大紙相撲大会＞

（5）アウトリーチ支援事業（市委託事業）

5, 105, 559 円

地域のなかで困りごとを抱えているが支援機関等につながっていない、社会的孤立の状態である方を対象に訪問支援等を行いました。初期相談の中では本人に繋がる前段階での家族支援から行いました。また、電話・来所での相談がしづらい人や難しい人が、相談につながりやすくなるように、LINE相談「東御市ひきこもり・孤立相談窓口」を開設しました。

＜利用件数＞

年代	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明	合計
男	2	3	2	3	5	1	0	1	17
女	1	2	0	3	1	0	0	1	8
合計	3	5	2	6	6	1	0	2	25

<支援状況>

本人と面談	自宅訪問	家族支援	関係者との共有	就労中	中断・終了
10	9	13	3	1	0

3. 生活困難・困窮者への支援

(1) 生活支援の貸付相談件数 延 227 件

○生活資金貸付総件数 (市社協扱い)

◆生活資金(助け合い資金) 17 件 402,000 円

休職や離職等の理由ではなく物価高騰等により生活費が不足し少額の借入を希望される世帯が増加しています。また、生計維持できる収入が無い、病気等により就労できる状態ではない等の相談については、まいさば東御や東御市福祉課援護係等と連携を図り、生活の立て直しに向けた支援を行いました。

○生活福祉資金貸付件数 (県社協扱い)

◆総合支援資金 2 件 1,023,000 円

◆福祉資金 3 件 237,000 円

◆教育支援資金 3 件 3,140,000 円

(2) 緊急小口資金等の特例貸付実施後の相談支援体制強化事業(県社協受託)

特例貸付償還免除世帯や償還困難世帯を対象に、今後の生活の立て直しに向けた生活相談を、まいさば東御と連携しながら行いました。償還をすることが困難な世帯に対して、生活福祉資金特例貸付管理事務センターと連携し、償還免除もしくは猶予申請の為の相談を、行いました。

- ・生活相談延人数 142 人
- ・償還相談延人数 91 人

(3) 生活困窮者への緊急食料支援の実施(共同募金広域配分事業)

令和4年12月1日より、多くの食料支援ニーズに対応するため、長野県フードサポートセンター(長野県社会福祉協議会が長野県から受託)が創設されました。これまでのフードバンク信州(ななせ仲まち園)の食料支援に加えて、生鮮食品を含む食料支援を実施したり、フードバンク活動の普及や啓発等を行う事業として創設されました。

○長野県フードサポートセンター

支援者	支援世帯数	延支援回数
長野県フードサポートセンター	14	45

○食料支援事業(フードサポートとうみの縁)

令和2年度から独自事業として実施しています。障害や体調不良のため、就労が難しいことから収入が少ない方や、増収が見込めず生活保護に近い方、収入がほとんどなく住宅ローン等のために生活保護が受けられない方なども利用しました。いただいた寄付の中には、第三の居場所ゆめぼけっと・とうみで使ってほしいと寄付をする方も多数いました。

また、令和6年12月の「年末みにふえす&なんでも相談会」では、食料と日用品の配布をセットで行いました。

◆利用者延人数 502 人（昨年：596 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R7. 1 月	2 月	3 月	合計
人数	39	39	31	39	38	44	47	41	33	47	47	57	502

◆寄付受付者延人数 204 人（昨年：193 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R7. 1 月	2 月	3 月	合計
人数	10	11	14	11	24	21	19	23	29	17	10	15	204

寄付受付団体数 延 15 団体（昨年：10 団体）

◆食料在庫量（寄付）

食料重量…2,268 kg 米…1,523 kg

◆長野県フードバンク活動団体連絡協議会 1 回

◆「日常生活用品等の緊急支援事業」（長野県社協） 58 件

◆県社協「広域フードパントリーむすびや」の利用 3 回



<年末みにふえす&なんでも
相談会の食料と日用品の提供>

（４）仕事・生活サポーター事業

自立相談支援事業の相談者やその子どもに、オーダーメイドの支援をするために、市民に支援員（サポーター）登録をしてもらい、就労準備支援事業のサポーターとしても活躍しました。

○実績数

利用者数	利用回数	サポーター数	支援 内容	孤立防止	生活・社会自立 意欲喚起	就労自立 意欲喚起
6 人	50 回	4 人		6 人	5 人	2 人

（５）協力事業所登録・就労体験・見学

職場見学・就労体験・プチバイト・認定就労訓練について協力する事業所を募り、パンフレットにしました。

○協力企業数…37 か所（令和 5 年度：36 か所）

農業・栽培	医療・福祉	食品・製造	警備	環境整備	その他
15	5	9	2	2	4

○協力内容（協力事業所以外の事業所も含む）

協力事業所は、就労見学・体験・プチバイト・就労支援プロジェクト・認定就労訓練について協力してもらいました。

（）は令和 5 年度件数

職場見学・体験	プチバイト	就労支援 プロジェクト	認定就労訓練事業
5 (7)	2 (3)	8 (3)	0 (1)

(6) 無料職業紹介による就労支援

令和 6 年 8 月に長野労働局から新規に無料職業紹介所として認定を受けました。相談者個人にマッチングする求人をハローワークを通さずに行うことができ、法令順守をしながら迅速な職業紹介を行いました。

求人票受付	求職者受付	無料職業紹介による就労者数
5	4	3

(7) 多頭飼育にかかわる課題解決とチーム支援

動物の多頭飼育により、生活環境や地域住民との関係性について課題を抱えている世帯や人の支援を進めるために、保健所、動物愛護センター、NPO 法人、行政の担当課、長野県社協などと、「チーム TAG」を結成し、多頭飼育問題にかかわる人や関係機関同士が学びと情報交換と発信のため定例会を開催しました。

◆オンライン会議 全 4 回

(8) 地域生活課題解決に向けた地域づくり・ネットワーク形成・グループ支援

多機関と協働して、ネットワークを組み、支援や仕組みづくりについて検討をしたり、課題解決の取り組みを行った。年々、片づけ支援や引っ越しの支援が必要になる事例が増加している。「年末みにふえす&なんでも相談会」は、相談や食料・日用品の提供をメインにしながら、誰でも楽しめる内容として企画したことで、外国人を含めた市民が交流する場になりました。

取組み内容・課題	会議・活動回数
身寄りのない人・単身者の支援会議(は一べすとの会)	16 回
廃棄物などの片づけに関するチーム支援	3 回

4. 権利擁護事業の推進

(1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいがあり判断能力が不十分な方々にとっても、東御市で安心して自立した生活が送れるように、福祉サービスの利用に関わる相談などの援助を行いました。関係機関からの問い合わせや相談では、相談内容が複雑化しており、まいさば東御や福祉関係者と情報を共有しながらすすめているケースも増えています。

専門員 : 5 人 生活支援員 : 5 人

◆相談件数 延 1,477 件 (新規・既契約含む)

専門員訪問調査回数	利用援助回数	ケース検討会議	書類等預かり件数
延 252 回	延 585 回	延 45 回	22 人 97 件

◆実利用者数 27 人

	認知症	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
新規	1	1	0	0	2
解約	1	2	0	1	4
総件数	6	10	8	3	27

- *新規契約件数 2 件、解約件数 4 件(内 1 件、成年後見制度へ移行)
- *現契約者数 24 人(令和 7 年 3 月 31 日現在)

(2) 金銭管理、財産保全サービス事業(市社協扱い)

実利用者数 3 人

*新規契約件数 1 件、解約件数 1 件

*現契約者数 2 人(令和 7 年 3 月 31 日現在)



＜北アルプス圏域権利擁護推進

ネットワーク協議会視察受入＞

(3) 成年後見制度の啓発・相談支援

◆上小圏域成年後見支援センター運営委員として参画し、上小圏域成年後見 支援センターの活動に協力しました。

◆日常生活自立支援事業や生活困窮者自立支援事業において、成年後見制度の相談や制度につなげました。

成年後見制度の初回相談	成年後見制度への移行相談
2 件	1 件

5. 結婚相談事業の推進

423,000 円

結婚を希望する未婚の男女に対して、在住地や在勤地を問わず、広域的な結婚支援活動を通して、各種相談の受け付け及びお見合いの場の設定等を行いました。

- (1) 相談状況 相談員 5 人
- ・相談日 毎月第 2・第 4 日曜日 午前 9 時～正午
 - ・相談場所 中央公民館 学習室

開催日数	相談件数	相談登録者数	お見合い件数	結婚成立件数
29 日	延 76 件	165 人 (男性 132 人、女性 33 人)	27 件	0 件

(2) 4 市町村結婚相談員連絡会事業(東御市、長和町、青木村、立科町)

- ・4 市町村との結婚相談員連絡会及び情報交換会
- 年間 12 回 参加相談員(東御市) 延 48 人

Ⅲ 地域福祉活動

1. 地域ささえあい活動の支援・推進

- (1) おらほの地域福祉づくり事業（共同募金配分金） 250,400 円
 地域の課題に対して、地域役員が主導し、地域住民が主体となって解決する仕組みづくりを応援するため、計 8 支部に助成金を交付すると共に、各種相談に応じました。

＜新規支部＞ 3 支部 90,000 円（1 支部 3 万円） ※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
片羽	1 年目	地域の絆を深める活動
海善寺北	1 年目	地域の絆を深める活動
御牧原北部	1 年目	地域の絆を深める活動

＜継続支部 2 年目＞ 2 支部 60,000 円（1 支部 3 万円） ※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
城ノ前	2 年目	災害時支えあい台帳づくり
大日向	2 年目	地域の見守り活動

＜継続支部 3 年目＞ 3 支部 90,000 円（1 支部 3 万円） ※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
常田	3 年目	災害時支えあい台帳づくり
金井	3 年目	地域の絆を深める活動
日向が丘	3 年目	地域の見守り活動

(2) 支部福祉活動の支援

- ① 支部福祉活動助成金の交付 67 支部 1,787,000 円

- ② 地区別地域福祉懇談会 26,502 円

支部長・福祉運営委員長等、支部福祉活動に関係する地域役員等を対象として、地区別に福祉懇談会を開催し、各種情報提供のほか、支部ごとの懇談を図りました。

内容 ・社会福祉協議会の事業について
 ・地域福祉活動の推進について



＜地域福祉懇談会＞

地区	日にち	場所	参加人数
北御牧	2 月 17 日	北御牧公民館	43 人
和	2 月 19 日	和コミュニティセンター	41 人
滋野	2 月 21 日	滋野コミュニティセンター	41 人
祢津	2 月 26 日	総合福祉センター	36 人

田中	2月28日	中央公民館	40人
合計			201人

③ いきいきサロン等助成事業

897,700円

・実施支部 37支部 ・総参加者 7,742人

事業	茶会	会食会	世代間交流	福祉新聞の発行	課題調査
回数	210回	136回	5回	5回	0回
参加者数	2,712人	3,156人	201人	330部	
事業	食事サービス	ふれあい訪問	講演・講習会	福祉施設訪問	
回数	2回	27回	1回	0回	
参加者数	63人	1,610人			

④ 地域活動援助講座

サロンを運営する福祉運営委員やボランティアを対象に、サロンで活用できる料理の講習会を開催しました。また3月は「サロン・地域福祉活動の担い手交流会」として開催し、役員等による情報交換も行いました。



○いきいきサロンのための料理講習会 2回

- ・対象者 各区福祉運営委員・ボランティア
- ・講師 東御市食生活改善推進協議会会員

<いきいきサロンのための料理講習会>

期 日	テーマ	参加者
7月10日(水)	・ チーズ蒸しパン ・ ひんやり野菜の寒天寄せ ・ 小松菜・豆乳・甘酒のスムージー	11人
3月6日(木)	・ 簡単にできる道明寺の桜餅 ・ お花のようなポテトサラダ ・ アイデアおやつ! 生きな粉	14人

⑤ 地域の絆づくり支援事業

- ・レクリエーション用品の貸し出し
ハンドベル、お手玉、輪投げ等ゲーム用具等 274件

⑥ 地域への出前講座 50回

支部福祉運営委員会等からの依頼により、職員による出前講座を実施しました。また、ボッチャ体験については、一部の依頼についてボッチャサポーターの会へ依頼し、サポーターによる出前講座を行いました。

講 座	回数	講 座	回数
介護予防体操（レクリエーション）	8 回	エンディングノート	3 回
認知症講座	4 回	レクリエーション等補助	2 回
介護保険の上手な使い方	1 回	ようこそ！社協	0 回
ボッチャ体験	31 回	その他	0 回

(3) 福祉のまちづくり講座「とうみ男の遊び塾」

男性のコミュニティづくりを支援し、地域における役割や生きがいを支援するため、様々なテーマのもとに集えるサロンを開催しました。

	開催日	参加人数	内容
第1回	7月20日	9人	被災地支援チャリティーバザー（ボランティア連絡協議会主催）におけるカフェ実施
第2回	10月26日	8人	福祉の森ふれあいフェスティバルへのボランティア参加
第3回	12月21日	6人	何でも相談会&カフェへでのカフェ実施
第4回	12月26日	6人	ゆめぼけっと・とうみとの合同開催による「年末餅つき塾」の開催
第5回	3月26日	7人	ゆめぼけっと・とうみとの合同開催による「手打ちうどん作り」の実施

(4) 終活セミナー

日 時 令和7年3月17日（月）
 場 所 東御市総合福祉センター3階 研修室
 内 容 ①終活ってなに？ ～エンディングノートの書き方～
 講師 社会福祉協議会職員
 ②いざという時に ～遺言・相続について～
 講師 行政書士事務所マードレ 諸野脇晴子 氏
 参加者 16人

(5) 介護講座「あった介護教室」

日 時 令和7年3月22日（土）
 場 所 総合福祉センター3階 講堂
 内 容 目指せ！食べて生き生きシニア 管理栄養士 須貝美津枝 氏
 参加者 40人

(6) 福祉自動車貸し出しサービス事業

396,744 円

- ・登録者 利用会員数 98人
- ・利用延回数 150回（内、福祉移送ボランティア15回）

(7) 福祉用具貸与事業

175,300 円

貸出物品	備品台数	利用件数
介護用ベッド	67	68
車椅子	68	※130
マットレス・エアマット	63	68
ポータブルトイレ	59	67
その他（歩行器等）	21	13
合 計	296	304

※車いすの利用件数の内、52 件は短期間の貸出件数

(8) 生活支援コーディネーター事業

東御市からの委託を受け、生活支援コーディネーターを配置し、地域福祉活動の推進及び福祉課題や潜在的なニーズの発掘に取り組みました。

① 東御市生活支援協議体会議の開催及び運営（開催：計 2 回）

〔第 1 回〕日 時：令和 6 年 9 月 3 日 午前 10 時 00 分～午前 11 時

参加者：ボランティア連絡協議会の役員 6 人

内 容：「日頃の支えあい・ボランティア活動の現状と有償ボランティアについて」

〔第 2 回〕日 時：令和 7 年 3 月 18 日 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

参加者：有償サポーター養成講座受講者 8 人

内 容：「日常生活サポート事業について」

② 通いの場・通所型サービスの支援（出席等：計 16 回）

- ・ 地域包括支援センターが開く「通いの場・通所型サービスについての関係者研修会」へ定期参加。関係者と市内での福祉事業の実施状況等について協議。（8 回）
- ・ 認知症特化通所型サービス C の新設に関する打ち合わせ・調整支援（7 回）
- ・ 住民主体サービスの継続的な担い手を育成する「介護予防住民指導者養成講座」へ参加。（1 回）

③ 関連する会議・研修会への出席・協力（計 6 回）

- ・ 令和 6 年 9 月 18 日 午後 19 時 00 分～午後 20 時 第 1 回地域ケア推進会議（市主催）
- ・ 令和 6 年 9 月 30 日 午前 10 時 00 分～午後 4 時 地域福祉コーディネーター総合研修
ボランティアによる支えあい活動事例（生活支援コーディネーターとしての調整事例）について当事者 1 人、ボランティア 2 人と共に事例報告（協力）※県社協主催
- ・ 令和 6 年 10 月 22 日 午後 1 時 00 分～午後 3 時 地域包括ケア研修（市主催）参加
- ・ 令和 6 年 11 月 19 日 午後 1 時 00 分～午後 3 時 上田周辺地域コーディネーター研修会
- ・ 令和 6 年 11 月 27 日 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分 岡谷市社協視察受け入れ
「東御市における地域福祉の推進について（生活支援コーディネーターの取り組みについて）」
- ・ 令和 7 年 3 月 12 日 午後 1 時 00 分～午後 3 時 地域包括ケア研修（市主催）参加

④ 行政区等、既存の組織による地域（福祉）活動への支援（相談対応等：計 376 回）

※主にいきいきサロン等の住民の交流の場づくり、災害時の支えあい体制づくり、安否確認体制づくりに関する相談等の受付状況。

- ・ 区が主体で実施する福祉活動に関する相談・支援（来所・電話 327 回）
- ・ 区が主体で実施する福祉活動に関する会議等への出席（21 回）
- ・ 地区単位の地域づくり組織が主催する会議・打ち合わせ・イベント等への出席（25 回）
しげの里づくりの会の生活支えあい部会定例会への参加及び通学合宿への協力ほか
- ・ 住民主体のサロン活動に関する相談・支援・参加（2 回）
北御牧地区八反田区における住民主体による居場所づくり支援
- ・ 地域包括支援センター及び田中区福祉運営委員会・認知症カフェとの連携による地域内における認知症対応の声かけ訓練への参加・協力（1 回）

⑤ 個別訪問及び個別ケースへの支援（対応等：計 173 回）

※社協事業を通じた対応等を含めた個別訪問・個別ケースへの対応状況

- ・ 社協事業（寝具洗濯乾燥サービス事業等）の訪問機会における個別訪問（158 回）
※訪問の際には「社協等の相談体制に関するご案内資料」を配布。生活支援コーディネーターについても紹介し、周知啓発も実施。
- ・ 訪問ケースへの対応（15 回）
※地域の課題として把握された個別ケースに対して、関係者と協力し対応したケース等。

⑥ その他、(1)～(4)に属さないものの、コーディネーターとして対応したケース（24 回）

交流の場・居場所づくり等の一環として「男性の料理サロン」、「とうみ男の遊び塾」、「はーべすとの会（身寄りのない单身者の団体）」などの運営を企画・支援。

⑦ 近隣市町村の生活支援コーディネーターとの交流・研修会への出席（2 回）

上田市、東御市、長和町、青木村、坂城町、立科町の生活支援コーディネーター（一層及び二層）が参加する交流・研修会への参加・企画

- ・ 令和 6 年 6 月 27 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 滋野地区コミュニティセンター
「地域住民主体の“居場所・拠点”「おらちのえんがわ」見学ほか」（東御市社協主催）
- ・ 令和 6 年 11 月 19 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 立科町役場 3 階大会議室
「立科町生活支援体制整備事業協議体「たてしな“ずく”りの会」について」

2. 子どもの居場所づくり事業

（1） 東御市子ども第三の居場所づくり事業（市受託事業） 16,060,648 円

① 事業の概要

小学校低学年の子どもを主な対象とし、親の就労等により放課後の居場所がない子どもや、様々な事情や背景を抱える子どもたちを各学校まで迎えに行き、人との交流や各種活動、学習や掃除等の居場所での活動を通じて、子どもたちが生きていく力を身に付けていくための場として市内小中学校から子どもたちが利用しました。また、必要な家庭に対しては食事の提供、自宅への送迎も行い、子どもサポートセンター他関係機関と協力し、保護者からの相談への対応を含め、子どもの健全な育成に努めました。

その他にも、子どもの学習・生活支援事業と協力し、学習の場の提供等においても居場所を活用しています。

② 令和 6 年度利用状況

- ・ 延べ利用人数 2,119 人

・登録児童数 31名（小学生：27名・中学生：4名）※3月末時点

③ 学校ごとの利用状況（登録児童数）

- | | | | |
|-------|-----|-------|----|
| ・田中小 | 10名 | ・東部中 | 2名 |
| ・柵津小 | 7名 | ・北御牧中 | 2名 |
| ・滋野小 | 1名 | | |
| ・和小 | 4名 | | |
| ・北御牧小 | 5名 | | |



④ 主な活動

- ・ミニデイサービスとの交流会（食事作り・食事会、ゲーム）
- ・多世代サロン「おいでよサンサン」との交流
- ・「とうみ男の遊び塾」とのコラボ企画（年末餅つき、うどん作り体験）
- ・「ゆめぼけ農園」での野菜作り・収穫体験 他

（2）東御市支援対象児童等見守り強化事業（市受託事業）

5,531,372円

① 事業の概要

対象は、地域社会から孤立の傾向にある子育て家庭や妊娠・子育てに不安感を持つ家庭等の子どもや妊婦です。子育て支援サポーター養成講座を修了し、見守り支援員に登録した見守り支援員が、家庭や地域の居場所等へ定期的に訪問をします。子どもと家庭の状況把握や困りごとの相談に応じて、公的支援への橋渡しを行い、早期に適切な支援につなげました。

② 見守り支援員及びボランティアの養成

社会福祉協議会主催の子育て支援ボランティア養成講座 3月18日（火）15名参加

◎ボランティアグループ及び子育て支援ボランティア養成講座受講生に、東御市が主催する子育て見守りサポーター研修の受講を呼びかけました。

見守り支援員とは他に子育て支援に関するボランティアを随時要請及び募集。

※他に YouTube による視聴覚研修随時紹介人材育成につなげました。

③ 令和6年度見守り支援員登録者数

登録者 43名 ※支援員としての活動者 23人

④ 見守り支援員活動状況

見守り支援員は、イベント・研修会での託児、学校に出向いた学習支援や家庭訪問等で、子どもや保護者の様子や生活状況の確認、相談や傾聴等を行う中で必要に応じ様々な関係機関と連携をして、安心して生活が送れるように支援を進めました。

支援方法	支 援 活 動 内 容
訪問による活動	・学校の生活になじめない世帯への訪問 ・経済的支援を受けている対象世帯への見守り、相談等による訪問 ・親子関係がうまく築けていないケースの対応や子どもの体調確認や家庭での過ごし方等を家庭だけではなく学校・保育園への訪問を通じ、生活全般の様子を聞き取る中で、子ども及び家庭での生活の様子を確認 ◎経済的に支援が必要な世帯に訪問時 2,000 円程度の食料等の生活支援物品を支給
滞在による確認	・各種研修会や、講座、イベントに伴う託児等の対応 ・相談業務開催に伴う託児等 ・当事者組織の研修会に伴う託児等 ・その他児童のケガ（骨折）に伴う見守り支援
学習支援 学校での滞在活動	・支援学級児童生徒の見守り及び学習補助 ・担当教諭と連携した見守り支援活動 ・学校生活の意欲向上に向けた取り組み

※見守り支援員活動は、1 ケースにつき 2 時間を限度として報酬が支払われます。

訪問型 1 ケース 2,000 円 滞在型 1 ケース 1,500 円

見守り支援員実績（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

支援方法	回数	報酬	物品購入費
滞 在	106 回	159,000 円	
訪 問	226 回	444,000 円	310,472 円
学 習	30 回	45,000 円	
ゆめぼけっと	256 回	586,500 円	
合 計	618 回	1,234,500 円	310,472 円

（３） 地域生活課題解決に向けた地域づくり・ネットワークづくり・グループ支援

子どもだれでも居場所づくり事業 通称：「くる me」（市委託事業） 250,000 円

市内社会福祉法人と公益財団法人の協働により、各種相談機関など関係機関が声掛けを行い、世代を超えて、親子や青年から高齢者、学生、市民ボランティアが協働し、誰もが役割を持ち、自己肯定感や人とのつながりを創出し、安心できる居場所づくりを行いました。

令和 6 年度は、ちいさがた福祉会、みまき福祉会と協働開催しました。各法人から障害者の専門職の職員が参加するようになり、保護者の日頃の悩み、障害のある子どもの子育ての悩みなどを聞く相談コーナーを作ることができました。また、各法人の施設を利用することで、活動の場を広げることができました。

○活動実績

実施日	全参加 人数	スタ ッフ	大 人	子 ど も	世 帯 数	場 所	内 容
6月30日	34	26	2	6	6	芸術むら公園 明神池	カヤック、外遊び
7月15日	30	23	2	5	3	芸術むら公園 明神池	カヤック、外遊び
8月31日							台風接近のため中止
9月16日	47	25	9	13	7	芸術むら公園 明神池	カヤック、外遊び、ブー メランづくり
10月12日	22	17	2	3	3	芸術むら公園	スケッチ大会&アートチ ャレンジ
11月23日	30	13	8	9	6	芸術むら公園 テニスコート	外遊び、枯葉すべり、自 然散策、カレー作り
12月21日	42	19	8	15	12	総合福祉センター	同時開催の年末みにふえ すにて豚汁とおにぎりの 提供、長野大学学生企画 (宝探し)
1月25日	35	12	8	15	8	北御牧公民館 北御牧小学校校庭	キーホルダー作り、外遊 び
2月22日	45	19	9	17	10	ちいさがた福祉会 ダーチャ、らくど う	お菓子作り
3月22日	28	11	7	10	8	北御牧公民館	新聞紙遊び、外さんぽ
合計	313	165	55	93	63		

※4月と5月は、各法人との連携と準備のため、開催しませんでした。

○相談コーナー「大人のおしゃべりなんでも相談会」相談者数
延人数…10人

3. 共同募金配分事業

1. 高齢者への活動

940,960円

(1) ひとり暮らし高齢者の福祉サービス

○おせち料理

市内の飲食店に調理委託したおせち料理を、民生児童委員に把握していただいた対象世帯へ、民生児童委員の手渡しにより配布することで、年末の安否確認及びつながりを感じられる地域づくり活動の一助として実施しました。

- ・期 日 令和6年12月30日(月)
- ・訪 問 担当民生児童委員 延 52人
- ・対象者

一人暮らし 高齢者	高齢者 世帯	障がい者 独居世帯	障がい者 世帯	父子家庭	合 計
113 人	9 世帯 (18 食)	6 世帯	4 世帯 (8 食)	1 世帯 (3 食)	133 世帯 (148 食)

(2) 敬老祝賀事業

○金婚祝賀

28,160 円

東御市と東御市シニアクラブ連合会で主催（共催：東御市社会福祉協議会）する金婚祝賀式典において、祝品（慶祝状の額）を贈呈しました。

- ・金婚祝賀式典 令和6年9月13日（木）
- ・該当者 16組
- ・会 場 東御市高齢者センター



<金婚祝賀式>

○敬老祝賀

476,000 円

市内の米寿、白寿を迎える高齢者を対象に、敬老祝品（タオル）を贈呈しました。贈呈については、訪問を希望する対象者には市長と社協会長が訪問させていただき、その他の方は民生児童委員に協力を依頼し贈呈しました。

- ・対象者 合計 206 人（米寿祝 174 人・白寿祝 32 人）
- ・祝賀訪問 56 人 令和6年9月25日（水）～26日（木）

2. 障がい者への活動

292,662 円

(1) 第21回障がい者福祉のつどい

12月3日～12月9日の「障がい者週間」の啓発期間に併せ、市内の関係機関・団体で実行委員会を組織し、障がい児者の抱える諸課題について啓発を行いました。

- ・日 時 令和6年11月30日（土）午後1時30分～午後3時30分
- ・会 場 中央公民館3階 講堂
- ・参加者 福祉団体関係者、来賓等 156 人
- ・内 容

◆ アトラクション

- ・「バリアフリー合唱団コールレインボー」

◆ 講演

- ・「ダウン症の娘の夢を追いかけて～Angel★Smile と共に～」

講師：ダウン症モデル・菜桜氏、母・斉藤由美氏



<障がい者福祉のつどい>

(2) 障がい者社会参加支援事業助成

地域における障がい児者への理解を深め、運動・スポーツを通して障がい児者の社会参加を推進する活動に取り組む『みんなの健康×スポーツ実行委員会（事務局：公益財団法人身体教育医学研究所）』に助成金を交付しました。ボッチャのクラブ活動を中心に取り組みました。

① ユニバーサルスポーツの場づくり「わくわくスポーツ」への支援

開催期間 令和6年5月～令和7年1月（8回）
場 所 東御市中央公園第一体育館及び第二体育館
参 加 者 396 人（スタッフ含む）
内 容 『ボッチャ』を中心とした活動

② とうみボッチャリーグ戦

開催期間 令和6年9月～令和7年1月（4回）
場 所 東御中央公園第一体育館及び第二体育館
参 加 者 16 チーム 延 332 人
内 容 シーズン型のボッチャリーグの開催

③ 東御市総合体育大会ボッチャ競技開催支援

開 催 日 令和6年10月12日（土）
場 所 東御市中央公園第二体育館
参 加 者 28 チーム 延 170 名

④ とうみボッチャ 2025

開 催 日 令和7年2月15日（土）
場 所 東御市中央公園第一体育館
参 加 者 延べ 349 名
内 容 お楽しみの部とチャレンジの部に分かれての大会

⑤ パラ小学祭 in とうみ

開催期間 令和7年1月14日（火）
場 所 東御中央公園第一体育館及び第二体育館
参 加 者 市内5小学校5年、6年生 170 人
内 容 ボッチャ、車いすポートボール、車いすリレー

3. ボランティア活動

330,660 円

(1) ボランティア連絡協議会・ボランティア団体活動補助金(17 団体)の交付

市内のボランティア団体 32 団体・個人ボランティア 26 名が登録している東御市ボランティア連絡協議会の運営経費補助金 60,000 円と、同協議会に登録し、社会福祉協議会の推進するボランティアの啓発活動を協働して取り組む 17 団体に 15,000 円の補助金を交付しました。

(2) 男性の料理サロン「楽ちん・しあわせごはん」4 回及びイベント参加

男性に対して社会参加の機会・きっかけを提供すること、また家庭内での役割を担うきっかけ作りとしていただくことを目的に、料理サロンを開催しました。

開催日	テーマ	参加者
8 月 17 日	ビビンバ、ズッキーニ油みそ炒め、ナスとミョウガのなめ茸あえ	12 人
10 月 19 日	こねつけ、肉じゃが、なめことたたき長芋のみそ汁	10 人
12 月 17 日	手打ちそば、鶏肉の梅しそ巻き、豆腐のごま団子	10 人
2 月 15 日	五目茶碗蒸し、太巻き寿司、厚揚げの射込み煮	12 人

4. 児童・青少年への活動

992,846 円

(1) ひとり親家庭交流支援事業

ひとり親世帯を対象に、親子間及び家庭間の交流を深める為、交流ツアーを実施しました。

- ・期 日 令和7年3月29日(土)
- ・場 所 東京ディズニーシー
- ・参加者 18世帯 大人18人 子ども20人 (合計38人)
- ・内 容 バス内でのレクリエーション、テーマパーク内での交流

(2) 福祉協力校の指定、活動助成(8校)

市内の小中学校・高校8校を対象に、社会福祉への理解と関心を高めるとともに、社会への奉仕や連帯の精神を養う等、福祉教育の推進を図ることを目的として助成金を交付しました。 ※実績については福祉教育分野に別掲。

5. 社会福祉の啓発

2,493,364 円

(1) 社協報「ほほえみ」

(ボランティア情報「かわら版」含)の発行

- ・発行回数 年6回 奇数月の1日発行
- ・発行部数 10,800部
- ・編集委員 1人



<社協報(ほほえみ)>

(2) 啓発パンフレットの作成、配布

- ・「社協のしおり」350冊

(3) ホームページ、フェイスブックでの情報発信

[ホームページアドレス URL <http://www.tomisyakyo.or.jp>]

(4) 介護の日・福祉講演会の開催

厚生労働省が介護課題を啓発する為に設けた「介護の日」に併せて、介護の日・福祉講演会を開催しました。

- ・期 日 令和6年11月9日(土)
- ・場 所 総合福祉センター3階 講堂
- ・参加者 38人
- ・内 容

◆講 演

「地域で目指す、寝たきり0のまちづくり」

講師 医学博士、立科町町民課高齢者支援係 介護予防ドクター 鷹野 和美 氏



<介護の日・福祉講演会>

6. ふれあい交流サロン

428,071 円

(1) ふれあい交流サロン “おいでよサンサン”

ふれあい交流サロンとして、月1回(毎月第4火曜日)基本に開催。

8月には、本年度新たに開設した「ゆめぼけっと・とうみ」の子どもたちとの交流事業を

開催。年 13 回の開催となりました。

また、8 月は、福祉現場実習として大学の実習生 6 名を受け入れ、現役大学生との多世代の交流を楽しみました。

- ・開催回数 合計 13 回
- ・参加者数 延 150 人（男：18 人・女：119 人）＊子ども 13 人

7. おらほの地域福祉づくり事業の推進（再掲）

250,400 円

事業内容については、17 頁参照

IV 福祉教育、ボランティア活動の推進

1. 福祉教育の推進

福祉協力校として指定した市内の小中学校・高校で取り組んだ福祉教育実践活動は下記のとおりです。各校ともに、福祉施設等との交流や福祉体験学習などに取り組みました。



<活動内容>

<福祉体験学習>

学校名	内 容
田中小	ボッチャ体験学習、人権講演会、車いす体験、赤い羽根共同募金、目の不自由な方の生活の工夫についての授業、学年・学級によるSDG sの学習、手話体験、パラ小学祭 in とうみ
滋野小	井出やす子さんとの交流、車いす体験、アイマスク体験、ユニセフ募金・赤い羽根募金、書き損じ等不要官製はがき収集、レインボー祭り
称津小	赤い羽根募金、米づくりでの交流、ネットタイムでの地域の方々との交流、清掃活動、車いすバスケットボールの体験
和 小	保育園との交流、赤い羽根共同募金、書き損じはがき等収集、アルミ缶収集、車いすバスケット、ニュースポーツ交流
北御牧小	ケアポートみまきとの交流、アイマスク体験・対話鑑賞、車いすツインバスケット体験、北御牧中学校特別支援学級との交流学习、ストラップづくり、手話・点字体験、赤い羽根共同募金
東部中	2学年人権講演会、道の駅清掃ボランティアへの参加、福祉マップ作り、福祉の森ボランティア参加、赤い羽根共同募金、ベルマーク収集
北御牧中	1年福祉体験（認知症講座、ボッチャと高齢者疑似体験、障がい者について体験）、赤い羽根共同募金、地域活動
東御清翔高	ボッチャ・シッティングバレーボール体験、図書委員会読み聞かせボランティア「えほんのくに」、河川生物研究、校外清掃活動、トイレトペーパーの荷下ろしボランティア

<福祉体験学習>

学校名	実施回数	講師	ボランティア	延人数	内 容
田中小	3回	4名	5名	84名	福祉のお話、アイマスク体験、手話体験
滋野小	3回	1名	9名	94名	アイマスク体験、対話鑑賞体験、車いす体験
和小	2回	0名	7名	75名	高齢者疑似体験、ボッチャ体験
北御牧小	4回	6名	10名	145名	対話鑑賞体験、車いすツインバスケット体験、点字体験、手話体験
北御牧中	2回	0名	12名	70名	高齢者疑似体験、ボッチャ体験
合計	14回	11名	43名	468名	

2. ボランティア活動の推進

(1) ボランティアに関する登録・相談・情報提供・調整の状況

- ・ボランティア団体登録(者)数 62 団体(3,181 人)
- ・くるみの里ボランティアバンク(個人ボランティア)登録者数 94 人
- ・相談・調整者数 3,380 人
(来所 1,762 人・電話 953 人・メール 123 人・訪問 138 人・その他 404 人)
- ・相談件数 ボランティア依頼・受付・相談等 延 7,125 件
- ・ボランティア相談・依頼件数 音訳・点訳・施設ボラ、出前講座等 延 1,454 件

(2) ボランティア活動保険の補助

- ・加入者数 基本プラン 27 人
天災プラン 365 人
- ※保険料補助 天災プラン 280 人(社協補助 200 円) 55,850 円
天災プラン 35 人(社協負担 500 円) 17,500 円
- ※音訳・点訳ボランティア分

(3) ボランティア連絡協議会の活動支援

ボランティア連絡協議会と協働し、ボランティア団体の交流を図り、ボランティアの普及啓発に取り組みました。

① 楽しく交流する会 (障がい者とボランティアの交流会)

- ・期 日 令和 6 年 6 月 7 日 (金)
- ・場 所 孺恋鹿沢休暇村
- ・参加者 46 名(職員 2 名含む)
- ・内 容 参加者同士の交流会、ボッチャなどのレクリエーション

② ボランティアセンター研修会

- ・期 日 令和 7 年 2 月 11 日 (火)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3 階講堂
- ・内 容 普通救命講習 I
- ・参加者 34 名

(4) 上小ブロックボランティアフォーラム

- ・期 日 令和 6 年 12 月 1 日 (日)
- ・場 所 青木村文化会館
- ・参加者 104 名(東御市から 19 人参加)
- ・当番社協 青木村社会福祉協議会
- ・内 容 テーマ「これからのボランティア活動について、みんなで考えよう！」

(1) 実践発表

- ① 「でんでん虫の会の活動紹介と活動継続の工夫」
点訳サークル でんでん虫の会 西 嘉一氏 (上田市)
- ② 「つきそいボランティア活動」
ボランティア ゆいま〜る 金原元子氏 (長和町)
- ③ 「新たな一歩を踏み出したボランティアグループあおきの活動」
ボランティアグループあおき 栗林通子氏 (青木村)

講師兼ファシリテーター

公益財団法人 長野県長寿社会開発センター上小支部

シニア活動推進コーディネーター 下倉 亮一氏

(2) 語り「青木村の今・昔～住民の語りに学ぶ青木村の暮らし～」

語り手：堀内方子氏 増田奈香子氏

(3) グループディスカッション

3. ボランティアの養成、研修

(1) 夏のボランティア体験教室（サマーチャレンジボランティア）

- ・期 日 令和6年8月6日（火）
- ・場 所 宮田村民会館
- ・参加者 26人（内、講師4名、職員2名）
- ・内 容 「聴覚に障害がある方をサポートする聴導犬の活動を学ぼう！」をテーマに、聴覚障がいの方や聴導犬の育成を行っている方から学ぶ。

(2) 手話ボランティアスキルアップ講習会 2回

- ・期 日 令和6年11月10日（日）午前・午後各1回…初心者コース
 - ・場 所 総合福祉センター1階ボランティアルーム1・2
 - ・内 容 初心者コース2回
 - ・参加者 延 11人
 - ・講 師 長野県聴覚障害者協会登録講師 本木 理恵 氏
- ※充実コースは講師の都合により中止になりました。

(3) 音訳ボランティア養成セミナー 3回

- ・期 日 令和7年2月6日（木）・10日（月）・17日（月）
- ・場 所 東御市総合福祉センター3階研修室他
- ・参加者 延 29人
- ・講 師 元SBCアナウンサー 池田知可子 氏
音訳利用者 両角雪弥 氏

(4) 音訳スキルアップ講習会 4回

- ・期 日 令和6年11月7日（木）・25日（月）
令和6年12月5日（木）・20日（金）
- ・場 所 東御市総合福祉センター1階ボランティアルーム2
- ・参加者 延 28人
- ・内 容 朗読技術向上
- ・講 師 元SBCアナウンサー 池田知可子 氏

(5) 災害ボランティア養成講座

- ・期 日 令和7年3月8日（土）
- ・場 所 中央公民館 講堂
- ・参加者 83人



<災害ボランティア養成講座>

- ・内 容
講座テーマ「地域の防災を考える住民セミナー
～長野県の支援者から見た能登半島地震～」
- ・講演「能登半島地震災害における災害ボランティアセンターの活動について」
講師：山崎 博之 氏（社会福祉法人長野県社会福祉協議会）
- ・活動報告「東御のボランティアが見た・感じた能登半島」
報告者：災害ボランティア活動参加者 2 人
- ・ワークショップ「今日からはじめる“災害に強い地域づくり”」
進行：東御市社会福祉協議会

（6） ボッチャサポーター養成講座

- ・期 日 令和6年7月25日（木）、8月17日（土）
- ・場 所 東御市総合福祉センター3階講堂、東御市中央公園第二体育館
- ・参加者 延 16 人
- ・内 容 ボッチャの基本と市内ボッチャ活動への支援

4. 第18回福祉の森ふれあいフェスティバル

450,000 円

- ・期 日 令和6年10月26日（土）
- ・会 場 東御市総合福祉センター
- ・参加者 参加総数 1,500 人（協力団体 50 団体 ボランティア 198 人）
- ・内 容
 - ① 福祉体験コーナーの設置（手話、点訳、車イス体験等）
 - ② 障がい者施設の作品を展示・販売、設置
 - ③ ボランティア団体の活動発表（展示・体験・舞台）
 - ④ ふれあいミニコンサート・ふれあいコンサート
 - ⑤ 福祉協力校（市内小中学校）で取り組む
福祉体験学習の紹介
 - ⑥ 被災地支援バザー



<福祉の森ふれあいフェスティバル>

5. 福祉施設ボランティア担当者連絡会議

- ・期 日 令和7年2月27日（木）
- ・場 所 東御市総合福祉センター1階 ボランティアルーム 2
- ・参加者 6 名
- ・内 容 ボランティア受け入れ状況と課題の把握

6. ボランティアセンター運営委員会の開催

- ・期 日 令和6年7月29日（月）
- ・場 所 東御市総合福祉センター1階 ボランティアルーム 2
- ・参加者 9 人
- ・内 容 ボランティアセンターの現況と今後の課題について

V 在宅福祉サービス・支援事業

1. 高齢者支援

- (1) 介護予防事業の運営（市受託） 6,314,711 円

高齢者の閉じこもり・認知症・うつ予防等、要介護状態の予防を目的に、ミニデイサービス及び筋トレ事業、認知症特化通所型サービスを市から受託して取り組みました。

介護予防事業	利用実人員	延利用者	実施数	一日平均
ミニデイサービス（水）～（金）	37 人	1,254 人	147 回	8.5 人
筋トレ教室（月）	20 人	432 人	42 回	10 人
認知症特化通所型サービス C（火）	6 人	131 人	24 回	5.5 人

- (2) 寝具洗濯乾燥サービス事業（市受託） 525,586 円

概ね 70 歳以上の高齢者の単身世帯と高齢者世帯等で、寝具類の衛生管理が困難な世帯を対象に、寝具類の洗濯乾燥サービスを実施しました。

- ・実施回数 2 回（6 月・11 月）
- ・利用実人数 52 人
- ・利用者数 延 79 人
- ・利用枚数 144 枚
- ・対象者 高齢・障がいなどの理由により寝具の衛生管理が困難な方

- (3) 在宅介護者リフレッシュ事業（市受託） 274,832 円

在宅で要介護高齢者を介護している家族を対象に、心身のリフレッシュ（元気回復）を目的に、介護者相互の交流機会を提供しました。感染予防対策を講じての実施となりました。

- ・実施回数 3 回
- ・内 容 健康相談、健康体操、介護者交流、リフレッシュ等

実 施 日	場 所	参加者
令和 6 年 7 月 11 日（木）	地藏温泉「十福の湯」 ・リフレッシュ体操 ・十福の湯（昼食・入浴）	10 人
令和 6 年 11 月 12 日（火）	安曇野方面 ・穂高神社（参拝） ・安曇野ちひろ美術館（鑑賞） ・すずむし荘（昼食・交流）	15 人
令和 7 年 3 月 12 日（水）	南佐久郡方面 ・道の駅散策（ヘルシーテラス佐久平・八千穂高原） ・小海町「八峰の湯」（入浴・昼食・交流）	17 人

- (4) 寝たきり高齢者希望の旅事業（市補助） 314,086 円

日ごろの外出機会が十分ではない高齢者及びその家族に対する外出支援と参加者同士の交流を目的として、車いす等でも安心して参加できる旅行を実施しました。

- ・期 日 令和 6 年 6 月 28 日（金）

- ・行 先 長野市
おやきファームいろは堂、
シャトレーズホテル長野
ホクト(株)青木島センター、MIDORI 長野
- ・参加者
高齢者 11 名＋家族介護者 4 名＋
介助ボランティア 10 名＋職員 2 名
計 27 人



＜寝たきり高齢者希望の旅＞

(5) 家族介護者サロン“太陽の会”交流会

介護されている方、かつて介護を経験された方を対象に交流の場を設けています。
介護者だから共感できること、介護の中での工夫できること等、お茶を飲みながら、
美味しいランチを囲みながら気軽に何でも話せる場所を開設しました。

- ・期 日 令和6年 5月15日(水) 9月18日(水) 令和7年 1月22日(水)
- ・会 場 総合福祉センター3階研修室、
- ・参加者 延 30人

2. 障がい者支援

(1) 重度障がい者希望の旅事業 (市補助) 330,802 円

重度障がい者を対象に、外出機会の確保を目的として、誰もが安心して参加できる旅行を実施しました。

- ・期 日 令和6年11月16日(土)
- ・場 所 松本市方面 ・松本空港ターミナル(見学)
・松本ホテル花月(昼食) ・(株)石井味噌(見学・買い物)
- ・参加者 障がい(児)者9名＋家族介護者4名＋
介助ボランティア7名＋職員2名 計22人

(2) 視覚障がい者への音訳、点訳サービス支援 462,000 円

文字による情報入手が困難な視覚障がい者を対象に、市の広報誌や社協報等の音訳・
点訳をボランティアの協力を得て実施しました。

利用者 8人

- ・音訳・・・市報、市報お知らせ版、社協報、他
- ・点訳・・・生涯学習カレンダー、選挙公報、他

VI 介護保険事業

1. 居宅介護支援事業

市から介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援事業の一部を受託するとともに、要支援認定を受けられた方も、要介護認定を受けられた方も、各種のサービスなどを利用しながら自宅でその人らしい生活ができるよう、本人、家族等に寄り添い、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成しました。インフルエンザの流行、コロナ感染症の感染状況もありましたが、常に感染予防の対策を徹底しながら業務にあたりました。

広域連合からの介護認定調査の受託や、地域包括支援センターからの対応困難ケースの受け入れにも積極的に取り組み、今年度も介護支援専門員実習生も受け入れました。各種研修についてはオンラインなども利用しながら自己研鑽に努めました。

○ケアマネージャー人数 5人 ○利用総数 2,126件

<活動状況>

業 務	介護	介護予防 介護予防ケアマネジメント	計
ケアプラン作成総件数（給付管理件数）	1,992件	134件	2,126件
モニタリング訪問件数	2,445件	34件	2,479件
要介護認定調査（広域連合から）	33件	0件	33件
担当者会議開催件数	189件	11件	200件
アセスメント実施件数	189件	11件	200件
事例検討実施件数	7件	0件	7件
対応困難ケース受け入れ件数	5件	0件	5件

<月別居宅サービス計画（ケアプラン）延作成件数>

		令和5年度実績	令和6年度実績	増減
延作成件数	介護	1,868件	1,992件	124件
	介護予防	116件	134件	18件
月平均	介護	155.6件	166件	10.4件
	介護予防	9.7件	9.7件	1.5件

○要介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和6年度	168	165	169	168	173	180	173	175	172	158	149	142	1,992
令和5年度	139	150	143	156	156	156	162	163	157	155	158	173	1,868

○要支援 介護予防支援・介護予防支援ケアマネジメント支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和6年度	7	10	10	12	12	11	12	12	11	13	12	12	134
令和5年度	11	12	12	11	11	9	9	9	9	8	7	8	116

<介護度別ケアプラン作成件数>

○要介護

介護度	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
件数	812	636	230	216	98	1,992
月平均	68	53	19	18	8	166

○要支援

介護度	支援 1	支援 2	計
件数	60	74	134
月平均	5	6	11

<研修実績>

月	研 修 内 容 (外部)
5 月	・ケアマネネット 予防支援と予防マネジメント 社会資源の確認・ケアプランへの活用
6 月	・多職種連携会議 在宅での生活に足りない支援への解決 ・合同研修 (みまき福祉会) 障害から介護保険への移行ケースの検討 ・ケアマネネット 事例検討 ターミナル時の入院時連携について
7 月	・新規事業者研修 介護予防ケアマネージメント ・ケアマネネット 意思決定支援と想いを伝えるメモ ・多職種連携会議 続 在宅での生活に足りない支援への解決
8 月	・ケアマネネット 業務継続計画・感染症対策
9 月	・ケアマネネット 元ヤングケアラー当事者から学ぶ対人援助技術と連携 ・合同研修 (みまき福祉会) 障害から介護保険への移行ケースの検討・事例検討
10 月	・ケアマネネット プラン点検前研修 ・地域ケア研修 頼り頼られ輪島市仮設住宅の今 ・神経難病の理解 ALS の理解と生活の変化 ・人権研修 私のリスカバリー
11 月	・上小 医療介護の連携研修 ・実務研修者受け入れ協力事業所指導者研修 ・多職種連携会議 続 在宅での生活に足りない支援への解決 (ネットワークシステム)
12 月	・合同研修 (みまき福祉会) ターミナル期の利用者への支援・事例検討 ・ケアマネネット ケアプラン点検を終えて
1 月	・ケアマネネット 高齢者虐待対応の未然防止と早期発見 ・在宅看取り語りの場

2 月	・ケアマネネット 事例検討 家族支援が必要な事例 ・身寄りのない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援 ・予防ケアプラン研修 予防プランの入り口～アセスメント道場 ・認定調査員研修（上田広域） ・多職種連携会議 続 在宅での生活に足りない支援への解決（ネットワークシステム） ・オンライン研修 認定調査員現任研修（県） ・合同研修（みまき福祉会） 助成金についての勉強会 ・ターミナルケアと看取り その人らしく最期を迎えるために
3 月	・ケアマネネット 令和7年度の研修について ・合同研修（みまき福祉会） 振り返りと来年の研修計画について ・事業所見学・意見交換会 フォーレスト

<その他の活動>

- ・東御市民間事業所連絡協議会への参加
- ・認知症初期集中支援チーム会議への参加
- ・出前講座（介護保険の上手な使い方・認知症って何だろう）対応
- ・認知症サポーター養成講座

Ⅶ その他の福祉活動支援

1. 長野県共同募金会東御市共同募金委員会事業

社会福祉法人長野県共同募金会東御市共同募金委員会の窓口組織として募金活動等に組み込みました。

(1) 赤い羽根イベント・募金活動

○街頭募金・イベント募金等の実施(原則、各日職員2人及びボランティアにより実施)

実施日 : 場 所	
10月1日 道の駅 雷電くるみの里	10月2日 ベイシア東御店
10月3日 デリシア東御店	10月4日 しなの鉄道田中駅
10月5日 道の駅 雷電くるみの里	10月6日 道の駅 雷電くるみの里
10月7日 やおふく東御店	10月8日 ナナーズ東御店
10月10日 ベイシア東御店	10月11日 デリシア東御店
10月15日 しなの鉄道田中駅	10月16日 やおふく東御店
10月17日 ナナーズ東御店	10月19日 道の駅 雷電くるみの里
10月20日 道の駅 雷電くるみの里	

○戸別募金・・・行政区ごと支部長へ依頼

○学校での赤い羽根募金の取り組み 市内小中学校6校へ依頼

○職域募金の依頼

東御市役所職員、信州うえだ農協職員、
東御市社協職員等

○東御市振興公社 温泉施設へ募金箱設置の依頼

○市内大手スーパー店頭等へ募金箱設置の依頼

○市内企業へ企業募金の依頼

○自動販売機募金

道の駅「雷電くるみの里」、総合福祉センター、
東御市総合福祉センター



<赤い羽根共同募金
(火のアートフェスティバル)>

(2) 赤い羽根、歳末助け合い共同募金収納結果

◎令和6年度赤い羽根募金収納総額

5,213,845 円

<募金別内訳>

募金の種類	金 額	内 訳
戸別募金	4,687,826	4,990 戸
街頭募金	143,278	計 15 回実施
法人募金	95,000	16 法人
学校募金	28,614	市内 6 校
職域募金	52,304	東御市、社協、JA 信州うえだ東御支所
イベント募金	51,788	火のアート、福祉の森フェスほか

個人募金	1,483	
その他	153,552	募金箱、繰越金、利子等
収納総額	5,213,845	

(3) 共同募金会からの配分事業

令和6年度の市社協の地域福祉事業へ配分実績 3,951,135 円

(令和5年度の収納額 5,564,135 円の実績から、東御市への配分金)

<事業別配分内訳>

事業	金額	事業	金額
高齢者	869,000	その他	2,143,135
障害児・者	230,000	合 計	3,951,135
児童・青少年	709,000		

(4) 災害見舞金

・災害援護金配分 3 件 計 60,000 円

2. 日本赤十字社長野県支部東御市地区事業

(1) 赤十字奉仕団総会

- ・期 日 令和6年4月24日(水)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階 講堂
- ・内 容 令和5年度東御市赤十字奉仕団事業報告及び決算報告について
令和6年度東御市赤十字奉仕団事業計画及び予算について

(2) 日赤活動資金募集会議

- ・期 日 令和6年4月24日(水)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階 講堂
- ・内 容 日赤活動資金募集に係る事務説明

(3) 日赤活動資金募集総額 ・ 支援者数 5,232 人 ・ 寄付者 53 人 3,716,410 円

(4) 健康生活支援講習会

- ・期 日 令和6年6月27日(木)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 2階 高齢者センター
- ・内 容 認知症サポーター養成講座

(5) 一日赤十字

- ・期 日 令和6年8月21日(水)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階 講堂
- ・内 容 避難所体験ゲーム



<一日赤十字>

- (6) 日赤奉仕団視察研修会
・中止

- (7) 災害見舞
・住宅火災 1 件

3. 被災者義援金・海外救援金

- (1) ウクライナ人道危機救援金 (令和 4 年 3 月 2 日～受付中)

令和 6 年度	4 件	367,328 円
(令和 3 年度からの累計	51 件	2,537,348 円)

- (2) 令和 6 年度能登半島地震災害義援金 (令和 6 年 1 月 4 日～受付中)

令和 6 年度	8 件	1,113,763 円
(令和 5 年度からの累計	77 件	3,699,867 円)

- (3) 令和 6 年 9 月能登半島大雨災害義援金 (令和 6 年 9 月 25 日～受付中)

令和 6 年度	11 件	242,080 円
---------	------	-----------

4. 社会福祉団体活動の支援

- (1) 東御市福祉団体長会議

- ・日 時 令和 6 年 4 月 15 日 (月)
- ・会 場 東御市総合福祉センター
- ・参加者 市内福祉団体 (7 団体) の会長 及び社協・行政関係者
- ・内 容 令和 6 年度の団体に関わる事業についての協議及び補助金に関する連絡等

- (2) 福祉団体交流会 (ボッチャ) 50,000 円

福祉団体会員相互の交流及び情報交換の場の提供及びユニバーサルスポーツを通じた「誰もが幸せを感じられるまちづくり」の推進を目指し、ボッチャ競技を通じた交流会を実施しました。

- ・日 時 令和 6 年 6 月 3 日 (月)
- ・会 場 東御市第 2 体育館
- ・参加者 福祉団体関係者、審判員、来賓等 109 人
- ・内 容 体操、ボッチャ、表彰式ほか交流

- (3) 福祉団体活動補助金 1,230,000 円

○身体障害者福祉協会	310,000 円
○手をつなぐ育成会	115,000 円
○シニアクラブ連合会	100,000 円
○遺族会	530,000 円
○更生保護女性会	55,000 円
○保護司会	120,000 円
合 計	1,230,000 円

(4) 障がい者福祉のつどい実行委員会

- ・第1回 9月2日 総合福祉センター 「障がい者福祉のつどいの内容について」
 - ・第2回 10月9日 総合福祉センター 「障がい者福祉のつどいの詳細案について」
 - ・第3回 12月2日 「障がい者福祉のつどいの振り返りについて」
- 会 場 東御市総合福祉センター
- 構成員 市内福祉団体（7団体）の会長及び民間介護事業所連絡協議会会長